

ちよつとしい話

～ うれい 憂 ～

今日の日本は、政治を始めとして何かすべて地についていない様に思います。アメリカの第35代大統領John Fitzgerald Kennedyが大統領就任式でスピーチした中に“Ask not what nation can do for you, ask what you can do”とあります。ケネディー氏の言わんとするところは、「国が我々の為に何をしてくれるのかではなく、我々が国のために何が出来るかを考えてみよう」。現代の視点が少し逸れ、ややもすれば主客転倒になってしまうことが多々あり、それを心配しての事だと思えます。国の栄が民の栄になるのです。資生堂会長の福原義春氏は、生活指針を次のように話しています。「忘れてはならないことは、自分が何のために社会に存在しているのか。自分は、社会に何を貢献できるのか。社会の中で自分がどの様に生かされているのかと言ったことを自分に問い続けることです。人間の営み、変わらざる人間の真実の姿を追求して自分の生きる意味を考え、人間とは何かを見極めて行くことが、今、全ての人に求められている。」また、論語の中に、「子曰く、生けるにはこれに事うる礼を持ってし、死すればこれを葬る礼を持ってし、これを祭るに礼を以てす」。何をするにも礼の決まりに従って行動をするようにとの意味でしょう。私達は、全てに「つつしみ深く」ありたいものです。つつしむとは、尊いものの前に姿勢を正しくして生きるという事です。人間にとって一番尊いものは何でしょう。それは「いのち」です。生命こそ、第一であり軽んずることなく、私たちは身を慎みて一步一步着実に生きて行きたいものです。

善入院油掛地藏尊